

出会いとお別れ



４年前の８月20日、その日入居されたMさんの夜勤に当たらせてもらいました。ハッキリと話しをされて活気が有り、竹を割った様なお人柄でした。うだる様な熱帯夜で、止まらない汗に苦戦しながら、試行錯誤の無我夢中、気が付いたら初日でお疲れの様子のMさんと共に夜が明けていました。将棋では「何万局と言う対局の中でも一局と同じ将棋は無い」と言われますが、何回夜勤をしても、新たな発見や学びがあるのは、皆さん２人と同じ方は居ないオンリーワンです。昨日と同じ日、同じ状況は二度と無いと思うと、この仕事は日々が「一期一会」なのだと再認識させられます。

Mさんは当初車イスでの生活でしたが、つかまり立ち歩きが出来るまで回復し、翌年春には皆で金山緑地までお花見に行き、ファミリーレストランであんみつを美味しそうに召し上がっていました。Ｍさんの３人のお子さんやお孫さんは、定期的に面会に見えていました。お部屋でベッドで過ごされることが多くなっていたMさんと対面されていました。言葉を多く交わされる事は無かったですが、そこには、家族とＭさんに通底する「信頼や愛情」が伺え、スタッフまで暖かく包み込まれる様な空気が流れていました。本当にＭさんは皆から愛されておられたのでしょう。

そんなMさんも、去年夏には水分、食事摂取が困難となり「ターミナル間近」とドクターからも宣告されましたが、持ち直してその後は安定して過ごされていました。しかし春先より徐々に食欲も落ち、８月には最低限の水分を摂取するのが精一杯となりました。９月２日には下顎呼吸、危篤状態となり、１５時前に看護師が呼吸の僅かな変化を見逃さず、おやつの準備をしていた私を呼んでくれ、静かに呼吸が止まるのを看護師と一緒に見届けさせてもらいました。15時４分でした。

今回は過去のターミナルケアの経験も参考にし、看護師や医師、スタッフ仲間、他事業所の協力も多大に得て一丸となり、Ｍさんにとってベストな安らかなケアを探りながら、看取れたと思います。

「♪一番初めは一宮～二は日光東照宮～　♪チーチーパッパちいパッパ、スズメの学校の先生は～」「♪田子の浦に～うち出てみれば～白妙の～」まだ、Mさんの部屋に入ると、元気な歌声が聞こえて来るかの様です。千葉出身のMさんでした。タイムマシーンが有るのなら、営業されていた食料品店で、「はい、いらっしゃい～」とMさんからお買い物をしたかった。Mさん４年間有り難うございました。

（グループホームえん／滝谷賢介）